

世界の竹笹科

室井 綽

竹が日本に広く栽培されると共に自生の種類も甚だ多い、狭い日本から現在までに発表されたものが4族12属662種の多数にのぼり、日本外の地域で太平洋戦争までの記録では7族37属601種、合計7族46属1250種になつてゐる。竹では栽培面積や種類の何れから見ても世界を相手にしても余裕がある。

それに世界の竹に関する邦語のものは一篇もないから① ムンロ、ヘツケル、カモスその他の書物から属とその大まかな特徴と概数を列記して見た。

なお日本のものは紙数の関係から省略したから必要な方は中井博士の植物研究雑誌9巻や拙者の本誌1巻2号を参照して戴きたい。挿入の図版はカモス其他の著書から岡村はた先生が模写して下さい。厚く同先生に感謝したい。

各族の検査

A₁ 葉に鞘部なく枝は各節普通3—5、枝は2節よりなる、雄蕊3、子房1、柱頭3岐……〔7〕 Shibataeae

A₂ 葉に鞘部あり、枝は各節1—2—3—5、枝は多数の節よりなる

B₁ 草本茎、種子は薄い皮で包まれている……〔5〕 Chusqueae

B₂ 木本茎、
C₁ 穎は3—4個……〔1〕 Arthrostylidae

C₂ 穎は1—2個……〔3〕 Bacciferae
D₁ 種皮は肉質太又は集簇種子より分離する……〔3〕 Bacciferae

D₂ 種皮は薄くて種子に密着
E₁ 葉は格子目をなす

F₁ 喬木にして稈鞘は節の成長と同時に離脱する……〔2〕 Arundinarieae

F₂ 矮竹にして稈鞘は永久に離脱せず……〔6〕 Saseae

E₂ 葉は格子目を欠く……〔4〕 Bambuseae

Trib.〔1〕 Arthrostylidae

雄蕊3、離生、小穂は基部及び頂に不完全な花が着

く、花柱2又、深く裂ける、種子は薄皮に包まる、稈高は不定、稈に刺なし。

本族に3属がある。

A₁ 葉に格子目なし

B₁ 円錐形の小穂は単房又は円錐状に着生……〔1〕 Arthrostylidium

B₂ 偏圧形小穂は広角度に開出した分枝ある円錐花序に着生……〔5〕 Aulonemia

A₂ 葉は格子目あり、小穂2—3花、穂状の円錐花序……〔23〕 Melostachys

Trib.〔2〕 Arundinarieae マダケ族

雄蕊3、稀に3、離生、小穂1—多数、外穎鋭頭、或は小芒端、不明瞭な多脈、内穎は外穎と同長、2脊稜、薄き果皮は種子に合着、稈に刺なし、高さ不定、稈鞘は落ち易し、先端に附属物あり、葉は格子目状。本族に9属がある。

A₁ 稈は円柱形、小穂1—多花、苞穎は小數脈、花柱は極短、2—3分岐し柱頭が付く、稀に離生、3花柱穎2個、稀に1個

B₁ 雄蕊6個
C₁ 亞灌木或は喬木状、稀に15mを超す、葉は格子目状、花序円錐形又は房状……〔2〕 Arundinaria

C₂ 亞灌木、葉は格子目をなさず、花序は円錐形花序の枝梗の上に短い房状に並んだ1小穂、1花よりなる、花糸長し……〔28〕 Oreiostachyum

B₂ 雄蕊3個
C₁ 葉は格子目状をなさず、花序の最終枝梗基部には小苞片あり、子房上に3個の柱頭あり、1本の短い花柱が付く……〔45〕 Thammocalamus

C₂ 葉は格子目状、花序は偏側性、基部に有鞘小苞片あり、子房は座着、基部合着せざる花柱を備う……〔13〕 Fargesia

A₂ 稈は半円形、1面又は稀に両面とも平坦、或は凹

① C. Munro: A Monograph of the Bambusaceae(1868).

E. Hackel: Graminae-Bambusaceae, in Engle und Prantl. Die Naturliche Pflanzen-familien I, Abs. 2 pp. 89—97 (1887)

E. C. Camus: Les Bambusees (1913)

本研究は文部省より交附された科学研究助成金により「本邦に於ける竹笹科の分類学的研究」の1部として為されたものでありまして同省に対し深甚の謝意を表します。

みあり、雄蕊3

B₁ 柱頭極めて長く先端分岐、喬木性

C₁ 稈鞘の全部に離層が出来る
.....(42) Sinoarundinaria

C₂ 稈鞘の一背部に離層が出来ず籜が下垂する
.....(39) Semiarundinaria

B₂ 花柱は基部より離生、子房は無柄又は亞座着

C₁ 草質茎、雄蕊は超出せざる花糸を有す。花序は短い円錐形、小穂は不同の2小花よりなる
.....(24) Microcalamus

C₂ 竹の高さ3—4m、雄蕊は開花後殆んど花糸を抽出せず、花糸は広い円錐花、小穂は2、稀に1—3小花あり
.....(15) Glaziophyton

A₃ 稈は方形、凹みなし、花は未知
.....(44)? Tetragonocalamus

Trib. [3] Bacciferae

雄蕊6、稀にそれ以上、種皮は肉質又は集簇、種子より分離し得る。

本族に9属がある。

第1亞族 Dendrocalameae

内穎は2背稜

A₁ 小穂は2個、小花多数、円錐花序の頂部につく、子房は有毛、実は小さく果皮は集簇
.....(11) Dendrocalamus

A₂ 小穂は2小花、円錐花序の枝極の頂につく、子房は無毛、実は大きく肉質の果皮に包まる
.....(22) Melocalamus

A₃ 小穂は多小花、長く伸び、頂部及び基部に不完全小花あり

B₁ 実は小さく凹む、球形、果実は集簇、鱗片は3—5、成熟して癒合す
.....(34) Pseudostachyum

B₂ 実は長く嘴る、果実は集簇、分離出来る、外穎は基で軸を包む、頂で拡る
.....(43) Teinostachyum

B₃ 実は長く嘴る、果実は厚く分離し得る、外穎は軸を包む、鋭尖端、稍々皺あり
.....(8) Cephalostachyum

第2亞族 Melocanneae

内穎は無いか、登実花の外穎と同形

A₁ 雄蕊6個

B₁ 小穂は小形、座着、1花、実は熟する前に厚い肉付の脆い果皮で包まる、鱗片は無いか、又は發育不完全
.....(12) Dinochloa

B₂ 小穂は普通、円筒形、1花又は1つの不登実小

花、或は發育不全小花を備う、実は永存果皮か、又は集簇果皮に包まる、鱗片数は不定

.....(39) Schizostachyum

A₂ 雄蕊6、稀に5—7、鱗片3—2、種子有嘴西洋梨子状、肉質
.....(21) Melocanna

A₃ 雄蕊6—120、分離又は単体、鱗片の数は不定、種子大きい、果実は肉質
.....(27) Ochlandra

Trib. [4] Bambuseae ホウライチク族

雄蕊6、花糸離生、或は多少接合、小穂上下の小花不完全、内穎は2背稜、種皮は薄い果皮に包まる、稈は有刺又は無刺、円柱形、基部には時に Tabasheer と称する白い粉あり、中央の凹みは多少発達。

本族を2亜族13属とする。

第1亞族

A₁ 穎は未発達、雄蕊6、花糸離生、花柱3、基部まで分離

B₁ 小穂5—7花、上方に僅か1つの發育不完全な小花を有し花梗あり
.....(25) Nastus

B₂ 小穂は1個の完全小花と1個の第二次發育不全の小花よりなる、果実は離生、穎片に包まる、種子は接着部で果実に密着
.....(16) Gleslamia

A₂ 苞穎は発達、雄蕊6、自由花糸、小穂多花

B₁ 内穎は大、2背稜、稜は有翼、鱗片3

C₁ 花柱短く2—3—4個、葉は比較的狭い
.....(17) Guadua

C₂ 花柱長く基部まで2岐、葉は極めて広い
.....(18) Guadella

C₃ 花柱長く糸の様に伸び2個で先端更に2又する
.....(7) Brasilocalamus

B₂ 内穎狭く、無翼2背稜、鱗片3、稀に2—0

C₁ 内穎は頂上で僅に2裂、小穂多花
D₁ 稈は有刺
.....(6) Bambusa

D₂ 稈は無刺
.....(20) Leleba

C₂ 内穎僅に2背稜或は稜なし、小穂2花、鱗片なし
.....(29) Oreobambus

C₃ 小穂上部の内穎は背稜なく、頂端分又せず、下部の花の内穎は2背稜、先端2深裂、小穂は少数小花
.....(46) Thyrsostachy

A₁ 穎は発達、花糸は基部で単体雄蕊をなす。

B₁ 小穂は倒卵形、又は楕円形、多花、内穎は2背稜、鱗片は2—3個、不規則で無きことあり
.....(14) Gigantochloa

B₂ 小穂は長形、円筒形、角立つ、花少し、上部の花の内穎は背稜僅にあり、或は欠く
.....(30) Oxytenanthera

B₃ 小穂は卵形披針形、穎の下に関節あり、頂小花のみ登実、短円錐花序は扁側性…… (35) *Puelia*
第二亜族 *Atractocarpeae*

本亜族は *Bambusa* と *Baccifereae* との中間?

雄蕊6、花糸は基脚で単体雄蕊をなす、果皮薄く種子より分離せず、小穂の小花は対生、弓形、草質茎……(4) *Atractocarpa*

Trib. [5] *Chusqueae*

雄蕊3、花糸あり、小穂3、小穂の基部の小花は不完全、花柱短く2裂、柱頭2、極く稀に3、種子は薄い種皮で包まる、稈は草質。

本族に2属がある。

A₁ 葉は狭く基部に関節あり ……(10) *Chusquea*

A₂ 葉は広く基部に関節が無い ……(31) *Planotia*

Trib. [6] *Saseae* (Tat.) nov. ササ族

雄蕊3或は6、子房1、3分岐、離生花糸、小穂1—多花、外部は鋭頭、又は小芒端、不明瞭な多脈、内殻は外殻と同長、顕著な2背稜、薄き果皮は種子に密着、稈の長さ0.2—3m、矮竹多し、稈軸は成長後も離脱せず、3—5年で上部より腐り落つ、芽は各節1—3—7、葉は格子脈状をなす。

本族には次の8属を含むが、本誌1巻3号に詳記してあるからこゝでは省略する。

(9) *Chimonobambusa* カンチク属 (19) *Indocalamus* ニイタカメダケ属 (26) *Nipponobambusa* ハコネメダケ属 (32) *Pleioblastus* メダケ属 (33) *Pseudosasa* ヤダケ属 (36) *Sasa* クマザサ属 (37) *Sasaella*、アズマササ属 (38) *Sasamorpha* スズダケ属

Trib. [7] *Shibataeae* オカメササ族

稈は側性又は頂生、半円柱形、節は高し籐は紙質又は膜質で先端に芒状の附属物あり、肩毛を欠く、枝は各節1—5個、2節よりなり、先きに1個の葉をつく、2年目にはこの節より葉を出す、葉には鞘部なし、竹類中本属のみの大きい特徴である。葉脈は格子目、花序は枝の葉のない節、又は基部より出で数個の穎花よりなる。基に4個の堅き鱗片を備う、穎花は3個の苞に包まれ外穎、内穎各1個、花穎3個、雄蕊3個、子房1個3又す。1属のみ

(41) *Shibataea* Makino オカメササ属

各属の記載

(1) *Arthrostylidium* Ruprecht

高灌木或は蔓竹、葉に格子目なし、小穂基部及び頂部に不完全花を有す。多花、座着、密生、単房状或は円錐花序、各花は関節により分離、下方1—2花無性、1個の殻あり、其の他は両性、穎2、鱗皮3、雄蕊3、花柱2、下方僅に合着、柱頭毛状或は羽裂。

A. capillifolium キューバ産にして、長さ6cmの毛の如き細葉を着ける。*A. excelsum* トリニダット、ドミニカ産で直径30cm、高さ25mの巨稈を有す。

〔分布〕北米、アンチル諸島、ジャマイカ島、メキシコ、キューバ、ベネゼラ、ペルー、ブラジル等に30種

(2) *Arundinaria* Michx. = *Sinarundinaria*

亜灌木或は喬木、籐は脱落性、芽は1節3、小穂離性、多花、長伸、総状或は円錐花序、穎は小形不同、時に欠除、外殻は無稜、往々短、芒あり、花柱2—3分離、雄蕊3、果実是有溝長形。

嘗て日本のアズマササ属に用いられたが芽の多く出ること、雄蕊3、籐の脱落すること等で区別出来る。

〔分布〕支那? ビルマ、印度、セイロン、アフリカ北米、ハイチ島、キューバ、メキシコ、コスタリア、ドミニカ島、エクアドル、ペルー、ギヤナ、ニューギニヤ、トリニダット島、ブラジル、オーストラリア(クインズランド)に100種

(3) *Athrostachys* Benth

蔓竹、葉鞘口に長き剛毛あり、苞葉に支持された座着頭状花を成す。小穂極く短柄、穎は短く2、花柱2。

〔分布〕ブラジルに1種

(4) *Atractocarpa* Franch.

草本茎、高さ30cm、葉は披針形、長さ18cm、巾7—8cm、小穂は偏圧多花、全部単性、頂花は雌性、下方4—6花は雄性或は無性、穎3—4、雄蕊花糸分離せず、鱗皮普通3、子房は大形紡錘形、果皮薄く穀粒より容易に分離。

〔分布〕ブラザビル(コンゴ)に1種

(5) *Aulonemia* Goudot

小穂多花、偏圧、下部及び上部に不完全花を有す。下花は1個の殻を有し無性、外穎は3脈、内穎は7脈、外殻は7脈、卵形、内殻は凹形、2脈、雄蕊3、葯線形、鱗皮3、不同、後方のは卵形、3脈、子房座着、楕円、花糸は基部糸状、柱頭2、羽裂。

〔分布〕ニューグラナダ、ベネゼラに1種

(6) *Bambusa* Schreb.

稈は丈高き木本、有刺、葉は短柄、格子目を欠く、葉鞘に耳あり、花序は種々、無葉の豊かな円錐、又は

有葉の円錐、又は穂状円錐、小穂多花、上花及び下花不完全又は両性花と単性花混在する。穎は2或は多数、下部穎は短大、膜質、内殻は膜質、細長、外殻より長いと同長、鱗片3、膜質、雄蕊6、基部離在、葯上部毛筆状、花柱2—3、甚短、先端羽裂、子房卵形、有毛、頂部有嘴、果実は楕円又は線状楕円形、鋭頭又は鈍頭、1本の溝あり、果皮は薄質。

B. spinosa 科に多量の珪酸を含み節間に珪酸質の固形物を蔵す。これを天竹黄 Tabaschr と称し強壯、催春剤に用いる。印度支那、ボルネオ、馬來、海南島等に原産。

(分布) 支那(海南島、台湾)、印度支那、ジャワ、ボルネオ、マレー、印度等に20種

(7) Brasilocalamus Nakai

花序が枝の先きに穂をつくり花軸に密毛が生え、小穂は花軸から平たく2列に並んで出る。花柱の許は球形で柱頭は2個で長く糸の様に伸び先きは再び2又する。

(分布) ブラジルに1種のみ

(8) Cephallostachyum Munro

高灌木、花序は近接せる上部葉より成る総苞に殆んど囲繞せられ緻密な球形頭状をなすか或は円錐形、小穂は多数、1小穂は3花より成る。中位の1花のみ登実、2個の殻を有す、下位花は唯1個の殻あり、上位花は發育不全、穎は2—3、大形、薄質、鱗皮3、通常大型、雄蕊6、葯長し、子房は広卵形、頂に1個の長き花柱あり、柱頭2—3、羽裂、果実楕円形、果皮は分離し得る。

(分布) 支那、比島、ビルマ、東印度、マダガスカル島等に10種

(9) Chimonobambusa Makino カンテク属

(分布) 日本に1種1変種のみ

(10) Chusquea Kunth (Fig. I)

亜灌木或は蔓竹、葉は小形、円錐花序は頂生、小穂は房状、穎4個、下位穎は狭小、上位穎は外穎花に似て巾広く無芒、雄蕊3、鱗皮3、花柱1—2、基部まで分離、柱頭内側毛状又は羽裂、稀に3柱頭、果実は線形、楕円形、或は偏圧。

(分布) 全米特有、特にアンデス及びブラジルの高地、メキシコより南チリーまで、チエロ島(チリーの南部にある島、南緯42°に及ぶ)等に75種

(11) Dendrocalamus Nees

高灌木又は喬木、稈鞘は脱落、小穂は円錐花序の枝梗に沿うて集簇、穎は2—多し、鱗片は無きか不完全

のものあり、花柱は1長形、柱頭短し2—3、基部は嘴状、果実は堅果小形、殆ど球形、有嘴。

D. strictus 最強、最有用竹にして毎年開花する。よく乾期に耐える。D. Hamiltoni 筍は食用として嗜好さる。D. Merrillianus 稈高く叢生し、若竹は割りて竹繩特に曳網の製用に用いる、強いので有名である。D. patellaris 節間が長く60—80cm、極めて多くのしなやかな横枝を出す。それが地面に垂れて奇観を呈す。籐等の材料となる。

(分布) 支那(本土、台湾には栽植)、比島、ボルネオ、スンダ列島、ジャワ、仏印、タイ、ビルマ、マレー、スマトラ、印度支那、印度等に30種

(12) Dinochloa Büse

蔓竹、稈は千鳥形に延び膝曲、稈鞘は宿存、籐には長い附属物あり、葉は大形、明瞭なる格子目あり、小穂は小形、1花、花序の頂又は花序分岐に座着、穎1—4、内殻包旋、無稜、鱗皮欠如或は小數、雄蕊6、子房卵形、無毛、果は広卵形、厚き果皮に包圍、肉質。

(分布) 比島、海南島、ボルネオ、ジャワ、マレー、アンダマン、ニコバル島、印度等に10種

(13) Fargesia Franchet

マダケ属に似るも稈或は枝梗の1側面に平坦部或は有溝部無く、花序は偏側、子房は無柄なり。

(分布) 支那に1種

(14) Gigantochloa Kuroz.

Bambusa 属に似ているが雄蕊が単体をなす点で異なる。

高木或は蔓性、稈の上部で分岐、鞘に耳あり、花序は複円錐、小穂は卵円形、下部及び上部に不完全花あり、両性花少し、穎は2—3、両性花の内殻は二背稜鱗片3—2、雄蕊6、基部単体をなす。葯の上部毛筆状、子房有嘴、果実は楕円或は線形、果皮膜質。

(分布) 比島、南支、ボルネオ、ジャワ、仏印、タイ、マレー、印度、アンダマン等に15種

(15) Glaziophyton Franch.

小穂は花序の最終分岐に着き円筒形、2小花、稀に1花又は3花、花は両性、上小花は長形、外殻5—7脈、脈は中程で稜形に隆起、内殻鋭頭2背稜、鱗皮3、倒卵形、雄蕊3、自由花糸、子房無毛、座着、楕円形、頂部稍々肥厚、花柱2、基部より分離、1個の大形で疊に分列した柱頭を有す。

(分布) ブラジルに1種

①下線のは日本産の竹につき本誌1巻2号の小生の記事を参照して戴き度い。

(16) *Greslania Balansa*

稈高2—3m、灌木、小穂は1小花、両性、穎2殻2、無芒で脈不明瞭、外殻凹形、内殻不明瞭の2背稜、鱗皮3、雄蕊6、子房無毛、花柱甚短、柱頭3、殆ど基部まで分れる、花序円錐形にして上部有葉又は無葉、果粒は外果皮に合着せず、瘦果なり。

〔分布〕 ニューカレドニアに4種

(17) *Guadua Kunth*

小穂は上方及び下方は不完全花、下方の若干の花は雌性或は無性にして単殻これに続く、両性花は2殻あり、穎は2、短し、外殻は多脈、卵形、内殻は内曲縁、2背稜、雄蕊6、鱗皮3、花柱は短、2—3の柱頭あり、羽裂、毛状或は細齒縁、*G. latifolia* では柱頭2岐、4柱頭を有す。果は卵形、或は線状楕円形。

〔分布〕 北米、メキシコ、ベネゼラ、エクアドル、ペルー、ブラジル等に30種

(18) *Guaduella Franch*

草質、高さ60cm、大葉をつく、小穂は偏圧、多花、下方は雌性、他は両性、外殻は革質、多脈、内殻は2背稜、稜は大形翼をなす。鱗皮3、倒卵形、雄蕊6、花糸短かく離生、子房楕円形、有毛、花柱延長2深裂、柱頭2、頂部まで合着。

仏国南のブライオン中期の土中より化石 *B. lugdunensis* Sop. が発掘さる。エングラ等はアシ属の1種? と云う。

〔分布〕 アフリカ (ガブン、カメロン、コンゴ) に4種

(19) *Indocalamus Nakai* = イタカメダケ属

稈軸は永存性、芽は普通3個、柱頭は4又する。

〔分布〕 支那(本土及び台湾)、比島に8種

(20) *Leleba Rumphius*

刺竹属 *Bambusa* によく似るが刺のないこと、子房のもとが丸くならないので区別される。

L. Balcooa は印度南部に産し、水に漬ると強靱になる特性がある。*L. Binghamii* は地下茎の屈曲し易い性質を土人は巧に利用して奇形な竹細工をする。*L. elegans* 馬來の1200mの高所に群落をつくる。*L. Klossii* は馬來の産で大きい鬚毛のある鱗皮がある珍らしい1種である。*L. tuldooides* は海南島、台湾、南支、仏印に原生し3—4年毎に開花結実する。結実後も根は枯死しない。

〔分布〕 日本(天草)、支那(南部、台湾)、比島、仏印、印度支那、タイ、ビルマ、米國(キューバ、ハイチ)等に100種

(21) *Melocanna Trin.* (Fig. I)

高木、葉は大形、有柄、格子目なし、小穂は小數花、小穂の上部及び下部に不完全花あり、両性花1個、

稀に2個あり、頂花は不完全、基部に鱗状苞片多數あり、登実花の外殻は小數脈、革質又は膜質、内殻は頗る長く膜質、鱗皮3、稀に2、雄蕊5—7、花柱長し、柱頭3、子房は長舟形、リンゴ形、肉質、突頭。

1種 *M. bambusoides* は東印度産、往々栽培、果実は竹類中最大で径8—12cmに及びピーテル ナットの様に美味、土人は焼いて食す。*M. compactiflorus* は萋竹で節間に清水を貯え山中での唯一の飲料水である。

〔分布〕 仏印、ビルマ、印度に5種

(22) *Merocalamus Bentham*

中形無刺の木本、垂蔓性の茎を出す、稈軸は宿存、花序は大形、複円錐形、小穂は極く小形、2花、穎は2、大形円形、鱗皮3、大形、雄蕊6、花糸短く離在、花柱短、柱頭2—3、羽裂、果実は甚だ大形、リンゴ位の大きさ、果皮は宿存なるも分離し得る、穀粒肉質

〔分布〕 ビルマに1種

(23) *Merostachys Spreng* (Fig. II)

高灌木又は萋竹、葉は不明瞭な格子目、小穂は頂部及び基部に不完全花あり、3—4花、下の2個花は殻1個のみを有し無性、極めて不同形、続く1花は両性、2個の殻あり、穎は欠如、雄蕊3 鱗皮3、花柱往々基部肥厚して球形、2柱頭に分岐。

〔分布〕 ブラジル、パラガイ、ペルー に20種

(24) *Microcalamus Franch*

花序は円錐花、穂軸角形、有毛、小穂は偏圧、2小花、花形不同、穎2個、凹形、外穎は3脈、内穎は2倍長、5脈、中性或は雄性花では外殻卵形、7脈、内殻は薄膜質、雄蕊3、両性花に於ては外殻は硬紙質、5脈、内殻は雄花と同様、鱗皮極小、倒卵形、雄蕊3、自由花糸、子房座着、卵形、無毛、花柱2個、延長、柱頭は上部羽裂。

〔分布〕 西部熱帯アフリカに1種

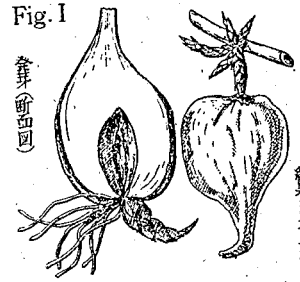
(25) *Nastus Jussieu*

小穂は下部及び頂端は不完全、短梗、偏圧、対生、5—7小花、下方の花は無性、不完全花1個を上方に有す、穎は2個、短、稀に発芽、鱗皮3、有毛、不等形、内2個大形、雄蕊6、花柱は基部まで深く3裂、柱頭は短く内側羽裂、果実は無毛、基部硬化、卵形。

〔分布〕 ブラジル、スマトラ、マダガスカル等に2種

Fig. I

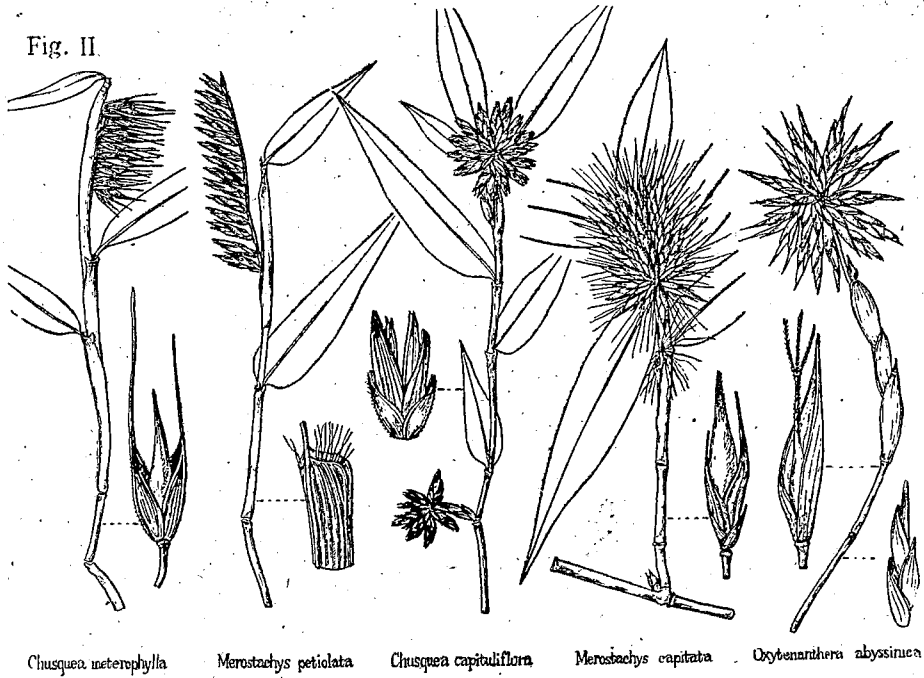
籐類



結実メシノコロ

Melocanna bambusoides

Fig. II



Chusquea ineterphylla

Merostachys petiolata

Chusquea capituliflora

Merostachys capitata

Oxytenanthera abyssinica

(26) *Nipponobambusa Muroi* ハコネメダケ属

〔分布〕 日本(中北部)に5種

(27) *Ochlandra Thwaites*

叢生灌木、稈柔軟、直立、細条あり、節間長し、稈鞘は薄く宿存性、花序は頂部に穂状をなすか有葉枝梗上に穂状円錐形をなす。小穂は輪生、1小花、極大形、空穎2—5あり、鱗皮1、或は以上、雄蕊6或は120に達す。花糸は単体雄蕊、葯は狭長、抽出、子房は狭い、花柱長く3—6柱頭、果は大形、卵円形、果皮厚く肉質。

〔分布〕 マレー、ジャワ、セイロン島、印度、マダガスカル島等に15種

(28) *Oreostachys Gamble*

低き灌木、小穂は1花、楕円形、円錐花序は分枝上に短房をして着く、両性花の穎は革質、下方4—6空穎、順次大きさを増す、殼は同形、鱗片3、雄蕊6、無毛の長花糸あり、子房無毛、広卵形、頂部肥厚、花柱基部で3裂、柱頭羽裂。

〔分布〕 ジャワに1種

(29) *Oreobambus Schum*

小穂は2小花、肥厚せる集団聚繖花序をなす。巾広き2個の穎あり、両性花2個、穎は普通2個、内殼は2背稜、雄蕊6、離生、脹れたる花糸あり、鱗片なし、花柱1箇、鋭尖頭、有毛、子房稍々三角形。

〔分布〕 アフリカ(ウサンブラ)に1種

(30) *Oxytenanthera Munro* (Fig. I)

根茎あり匍枝を出す。稈は木本又は蔓状、花序は枝の先きに頭状に密集又は小球状に輪生、小穂は狭く長し、円錐形、1—3花、上方のもの両性、穎は1—3、外殼卵形、細し、内殼2背稜、鱗皮なし、雄蕊6、単体雄蕊、葯は狭く、小尖頭、子房広卵形、花柱細く1—3分岐、果実細長。

O. Poilanei 仏印の産で花に蜜蜂が好んで集る。

〔分布〕 ニュギニヤ、スンダ列島、ジャワ、スマトラ、タイ、マレー、ビルマ、印度支那、印度、アンダマン、アフリカ(モザンビック)等に20種

(31) *Planotia Munro*

草質茎、長き葉を叢出する。葉身と鞘は関節せず、小穂は下方不完全花、無柄、下方の2花は無性で1個の殼あり、頂花は両性にして2殼、穎2、雄蕊3、鱗皮3、膜質、花柱短し、柱頭2、果実は卵形或は卵形楕円形、有嘴。

Neurolepis Kunth 西印度諸島産も同属と云う。

〔分布〕 熱帯アメリカ(アンチール、コロンビヤ、エクアドル)ニユギニヤ等に10種

(32) *Plecioblastus Nakai* メダケ属

〔分布〕 日本全土、支那(香港、台湾?)に分布する。

現在まで発表されたもの93種

(33) *Pseudosasa Makino* ヤダケ属

〔分布〕 日本(北海道を除く)朝鮮に3種、台湾には本属なし

(34) *Pseudostachyum* Munro

亞灌木、登実小穂は上方にも下方にも不完全花あり、下方不登実花は1個の穎あり、中部の2—3花は両性にして両穎あり、外殻は5脈、内殻は少し短、2背稜、鱗皮3—5、大形、果実が成熟すると合着、雄蕊6、花糸離在、子房無毛、花柱長く、子房上につき2短柱頭あり、果実は小球形。

〔分布〕 ビルマ、印度に2種

(35) *Puella* Franchet

草質、葉は狭長なる披針形葉、高さ30cm、小穂偏圧、多花、全花単性、頂花雌性、下方4—6は雄性、穎3—4、雄蕊は下部合着の花糸あり、雌蕊は登実、殼穎は同形、鱗皮2—3、小形、子房無毛、橢圓形、花柱2岐、果実は卵形、果皮薄く容易に分離。

〔分布〕 熱帯西アフリカのコンゴ、ガブんに5種

(36) *Sasa* Makino et Shibata クマザサ属

〔分布〕 日本、朝鮮、ソ聯(樺太)、支那(?)、現在まで発表されたもの389種

(37) *Sasaella* Makino アズマササ属

〔分布〕 日本(奄美大島より、北海道まで) 今日まで発表されたもの132種に達す。

(38) *Sasamorpha* Nakai スマダケ属

〔分布〕 日本、朝鮮、中、南支に分布する16種

(39) *Schizostachyum* Nees ツルダケ属

喬木或は灌木、時には蔓竹、秆は細長、籜は節間より短い、花序は枝梗上に穂状円錐形をなし、頭状に集る或は1個の頭状花をなす。小穂円筒形、1—複数花、通常穎1個、稀に2個、内殻は外殻に似る。無稜有溝、鱗皮3—1、不定、雄蕊6抽出、葯は狭く小尖端或は毛筆端、花糸離在、柱頭は3分岐、花柱長し、堅果小形、卵形又は球形、有皺、短嘴。

クルツ氏によれば小穂下垂せる *Chloothamus* Büse も同属なりと云う。

S.brachyclada はセレベスで織布とせられる。*S.diffusum* は台湾、比島の山地に生ずる蔓竹で4.0m以上にも伸び節間に清水を貯えているので樵夫の飲料となる。*S.Blumei* は仏印、東印度、マレーに産する蔓竹で高さ20mにも達し火吹竹、笛等につくる。*S.lima* は比島に産し直立茎を有し、節間が1mにも及ぶので有名である。

〔分布〕 支那(南支、台湾)、比島、ハワイ、南洋群島(パラオ、サンドウィッチ島)、サモア諸島、ニューギニア、仏印、タイ、マレー、セレベス、ボルネオ、ジャワ、スマトラ、印度、シヤム、マダガスカル島等に40種

(40) *Semiarundinaria* Makino ナリヒラダケ属

〔分布〕 日本、支那(台湾?、南支、海南島)に1種5

(41) *Shibataea* Makino オカメザサ属

〔分布〕 日本(1種)、支那(2種)あり

(42) *Sinoarundinaria* Ohwi マダケ属

マダケ、ハチク、モウソウ等を含む普通属

〔分布〕 日本、支那、ヒマラヤ、原産にして広く世界に、栽培さる。25種あり。

(43) *Teinostachyum* Munro

灌木、小穂は複数花、円筒形、下方1—2花と上方2—4花は不完全花にして登実せず1個の殻を有す。中部の3—5花は両性にして両殻あり、穎は2以上、鱗皮3、多脈、基部内曲す、雄蕊6、子房極めて長く、果実は漿果状有嘴。

〔分布〕 東印度、セイロン島に5種

(44) *Tetragonocalamus* Nakai シカクダケ属

花は未だ知られず、中井博士は植物研究雑誌9巻89頁に花部の詳記あるが実は本属のものでないと言う。本属は1種のみで未だ1回も花が咲かない由。(中井:同誌、12巻902頁)

〔分布〕 支那(福建、江蘇、台湾)原産であるが、日本及び世界中に広く栽培される。

(45) *Thamnocalamus* Munro

秆は叢生、中空、中央部の枝梗発達、籜は早落性、葉は格子目状、小形、花序基部に有鞘苞あり、小穂1—8花、單房状に着き佛焰或は苞形の長さ葉あり、穎は小穂の $\frac{2}{3}$ 程度、外殻は内殻と稍々同長、鱗皮3、雄蕊3、稀に6、花柱短、柱頭3、果実は線形、小形、

T.spathiflora はヒマラヤ西北部、2500—3400mの間に広く分布する1種、笛筒に作られ北印度の主要商品の1つである。

〔分布〕 支那、印度の山地に6種

(46) *Thyrsostachys* Gamble

秆は直立、強剛、秆鞘は薄く宿存性、葉も小形、花序は複円錐、小穂は座着、蒼白色、弛緩せる2—3花あり、頂端1花登実、1個の果粒と1個の小梗状をなす不發育、不登果を内在、穎1—2、有糸、殼は同形、鱗皮3—2稀に欠如、雄蕊6、長く抽出、子房有柄、倒円錐形、花柱には2—3の柱頭あり、果は円筒形、平滑無毛、果皮は殼粒に密着。

T.siamensis は仏印、タイに産し、庭園並に並木に植える。

〔分布〕 仏印、タイ、ビルマ、印度等に2種